

「理科ノート」

守るべき3つのコツ

『成績10倍ノート』の5つのコツのうち、理科では次の3つを特に重視します。

1 描える

3 行間・余白を取る

5 図で整理する

暗記ペンの活用

元素記号や実験器具の名前など、理科は覚えなければならないキーワードがたくさんあります。暗記ペンを使うことで、テスト直前でも効率よく見直すことができます。

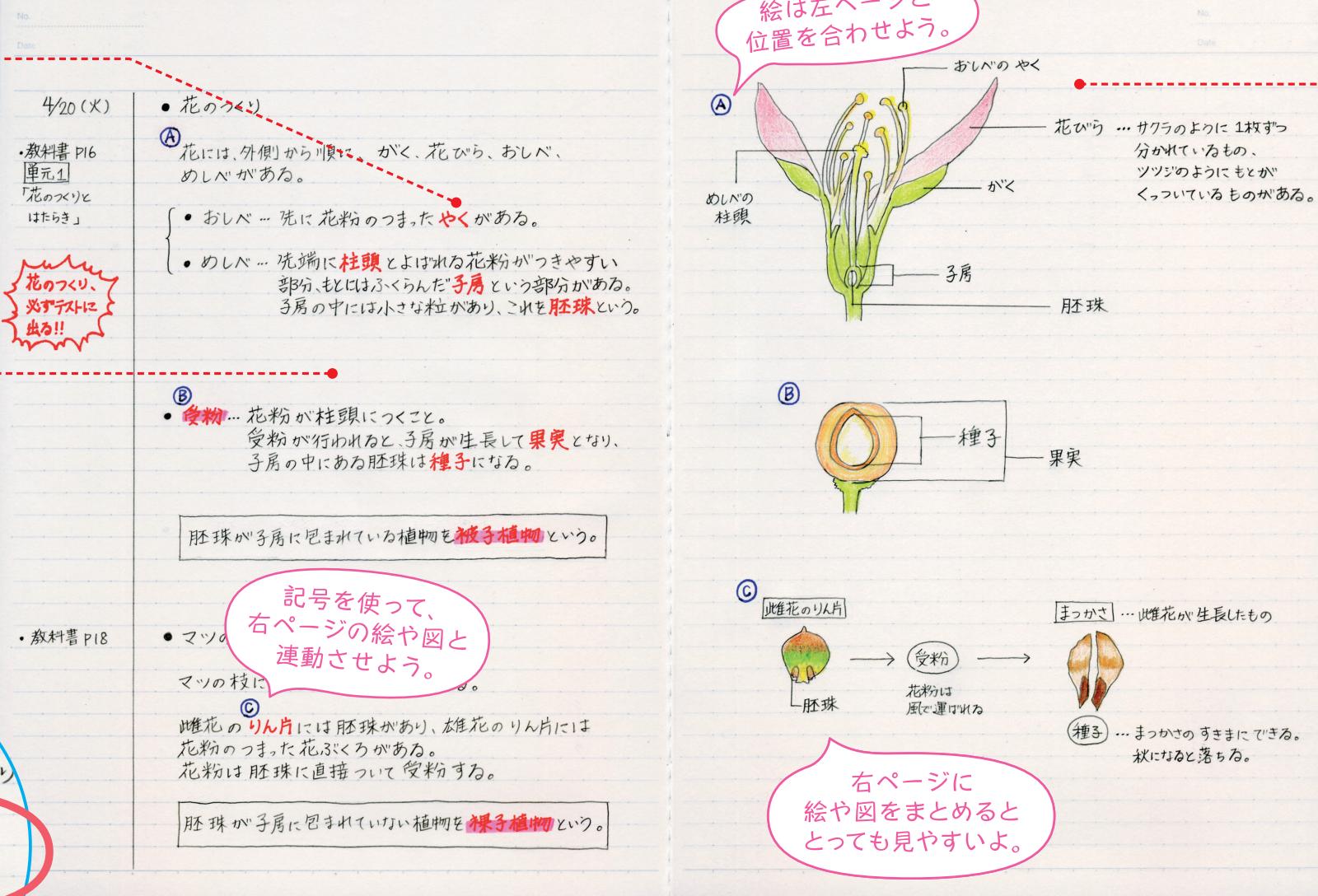
コツ3
を活かす!

余白を多めに取る

左ページは前回の授業の補足などを書き込むために、余白を取っておきましょう。理科の場合、左を授業の板書を書き写すページ、右を授業や復習の際に絵や図を描くページというふうに分けて使います。ちょっとした補足なら左ページに書けるようにしておきましょう。

余白
花には、外側から順に、かく、花びら、おしべ、めしべがある。
• おしべ…先に花粉のついたやくがある。
• めしべ…先端に柱頭とよばれる花粉がつきやすい部分、もじにはふくらんだ子房という部分がある。子房の中には小さな粒があり、これを胚珠という。
• 花粉が行なわれると、子房が生長して果実となり、子房の中にある胚珠は種子になる。
• 胚珠が子房に包まれている植物を被子植物といいう。
• 雌花のりん片には胚珠があり、雄花のりん片には花粉のついた花粉管がある。花粉は胚珠に直接ついて受粉する。
• 胚珠が子房に包まれていない植物を裸子植物といいう。
• 花粉が柱頭につくこと。
• 花粉が行なわれると、子房が生長して果実となり、子房の中にある胚珠は種子になる。

(ノート例: 見開き)



「理科ノート」は図で覚える!

中学校で学習する理科は、第1分野(物理・化学)と第2分野(生物・地学)に分かれています。分野ごとにノートを分けて使いましょう。実験のともなう単元や第2分野では、図や表が重要になってきます。授業でも「絵や図を描いて覚える」という作業が発生します。わかりやすいノートを作る工夫をしましょう。

絵や図はまとめる

絵や図を描くことが多い理科は、板書通りに写していくと少しづつにくくなってしまいます。絵や図は右ページに描きましょう。左右に分けて見やすくなります。絵や図は適度に大きく描いて、テスト前の見直しにも役立てましょう。

ここがポイント!

実験プリントも丁寧に見直そう

実験によっては事前にプリントが配られることがあります。「1実験1見開き」を目安に、プリントを左ページに貼って、右ページに結果や考察、まとめなどを書きましょう。

